



子どもの本能を大切にしたいものです

暑い日々が続いていますが、子どもたちはプールで水遊びをし、園庭でも思う存分に遊び元気いっぱいです。その中に、必ずと言っていいほど、虫を探し回る子どもたちがいます。ダンゴ虫を手に取り丸くなると嬉しそうに見せに来る子どもたちがいます。ハサミムシやミズアリアや野原のバッタなど、どんな虫も見逃しません。きらきら輝く瞳で一心不乱に虫を探し回る姿を見ると微笑ましくもまた、どこからこのようなエネルギーが出るのだろうと、私は不思議に思っていました。そのような折に、「母の友」という雑誌に、日本人初の宇宙飛行士であり、現在日本科学未来館館長の毛利衛さんの文章が載っていました。要約すると次のようなことが書かれていました。

『なぜ2～3歳の子どもが、昆虫や動物に興味を持つかという、生物としての人間が生きて伸びるために必要な行動だからなのです。「これはなんだろう？」とまず好奇心を持つことで本能的に学んでいるのです。本能で何か好奇心を持ち始めると、次にその好奇心をもった対象を「不思議だな。」と思い始め、その不思議を解決したいという欲求が自然と出てきます。このようなあり方が学問としての科学なのです。』さらに次のような文章もありました。「未来の科学技術を考えた時、AIはさらに発展するでしょう。となると、今までのように暗記中心の学習では通用しません。本能や感情といった感覚的なもの、つまり人間の情をむしろ大事にした方がよいでしょう。』最後に『2050年には100億人の人が地球上で暮らすことになると言われていました。私はみんなが平和で生き続けられるよう未来館で日々その知恵を考え続けています。』と綴られていました。

年齢が低ければ低いほど本能で行動することがたくさんあります。本能で動くことは危険なこともたくさんありますし、やってはいけない行為もあります。しかし、その素の状態でいるいろいろなものを見たり聞いたりする幼児期の子どもたちの行動は、実は生きていく上でとても大切な行動であることが毛利さんの文章から分かります。幼児期が、人生を生き抜くための土台作りになるように、子どもたちが日々五感をフルに使い、感性を豊かに磨き上げ、人間の情を育てることが出来る幼稚園や家庭でありたいと思っています。そして、大きく環境が変わるであろう2050年代を、たくましく生きてほしいと願っています。今月もどうぞよろしくお願いいたします。

7月の行事予定

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
	年長休園	年中休園	誕生会 個人面接 午前保育	年少休園		㊦
7	8	9	10	11	12	13
㊦	プール納め 弁当終了	給食終了	午前保育	終業式	年長 宿泊保育	→
14	15	16	17	18	19	20
㊦	㊦ 海の日	夏季預り保育				㊦
21	22	23	24	25	26	27
㊦						㊦
28	29	30	31			
㊦			→			



お知らせ

- ① 幼稚園からのお知らせ、手紙がファイルにはさまったままの方が見受けられます。大切な手紙もあります。必ず毎日確認してください。
- ② プール活動が間もなく終了いたします。天候の良い日は少しでも多くプールに入りたいと思いますので、プールカードに「押印」を忘れないようにお願いいたします。

夏期に向けて、自ら出来る節電・節水対策について！

- ① 使用しない部屋の照明はこまめに消す。
- ② エアコンの温度は、通常の1～2度高めに設定する。
- ③ ブラインド、遮光カーテン等で日射を遮りきめ細かな管理を行う。
- ④ 使用していないプラグは抜く。
- ⑤ その他、緑のカーテンの利用(朝顔等を育てる)。
- ⑥ 水は出っぱなしにせず、こまめに止める。



幼稚園でも、子どもたちと共に身近に出来る事から節電・節水に取り組んでいます。ご家庭でも節電・節水について家族で考えてみましょう。

*夏期に食中毒が多発します！

細菌性食中毒を予防するために、以下の食中毒予防の三原則を守り、食中毒を防ぎましょう。

- ① 付けない(洗う)
手にはさまざまな雑菌が付着しています。食中毒の原因菌が食物に付かないように、トイレの後、おむつ交換後、鼻をかんだ後、動物に触れた後、食卓に付く前などは必ず手を洗いましょう。
- ② ふやさない(低温で保存する)
細菌の多くは高温多湿な環境で増殖します。10℃以下で増殖が遅くなり、-15℃以下で増殖が停止します。食品は早く冷蔵庫に入れましょう。
- ③ やっつける(加熱処理)
ほとんどの細菌やウイルスは加熱によって死滅しますので、食品は加熱して食べましょう。

♪ 子どもの気持ち ♪

子どもがお母さんやお父さんにべたべたくっついて甘えたり、いたずらしたり、ちょっと乱暴な事をしてみたりするのは愛情を確かめようとしているのです。信頼しているからこそ出来るのです。そんな時、受け入れてもらえず叱る大人にはありのままの自分を出せません。叱る人の前では叱られないようにいやがることはしないだけなのです。このような大人は子どもに叱って対応すれば言う事を聞く子になると思っ

ていることが多いものです。これでは絶えず叱られなければ、動けないことになってしまいます。本来は子どもたちが自分を自由に出す中で、不都合を感じた時、どうしたらよくなるかを大人や友だちと考え、自らルールを守れる子になっていくことが大切ではないかと思ひます。叱られるから守るものではないということを再認識していただければいいなと思ひます。ただ、社会的に迷惑となる行動については状況によりその時に叱ることも必要です。いずれにしても、ゆっくり話を話していく事が大切です。

★ 先日、ピタゴラメールでご連絡いたしましたのが、夏休み中の預かり保育の時間【9:00～16:00】を増設いたしました。